

# 大野岳

教育目標「ふるさとを愛し 志をもつ児童生徒の育成」

～ふるさとに学ぶ ふるさとを学ぶ ふるさとの人と共に歩む～

令和4年7月7日発行 文責 校長 大島 和子

## ◎ GIGA スクール構想の推進

令和元年12月19日に当時の萩生田文部科学大臣が”子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育 ICT 環境の実現に向けて ～令和時代のスタンダードとしての1人1台端末環境～ ”という文部科学大臣メッセージが出されました。その中に、

「Society 5.0 時代に生きる子供たちにとって、PC 端末は鉛筆やノートと並ぶマストアイテムです。」という言葉がありました。

それから2年半が経ち、本校でもタブレット端末を活用した授業が格段に増えてきました。プレゼンテーションソフトを利用した発表はもちろんのこと、teams を活用したオンライン授業や課題の受け渡し等にも取り組んでいます。



<9年生による6年生への「ふるさと探訪」発表のようす>



<4年生のライنزオリエンテーションのようす>

そのような中に6月下旬より、「ライنزeライブラリ」を導入しました。これは、子供たちに最適で多様なニーズに応じた学習を実現するためのAI型ドリルです。このドリルは、子供たち一人一人の得意や興味関心・ペースに応じて学習を進めることができるようになっています。授業の確認テストとしても活用することができます。

子供たちは、自分なりの課題を選び、自分のペースで取り組んでいます。また、自分の「できているところ」と「できていないところ」がわかったり、学習回数によって種から芽が出て植物が成長したりすることで学習意欲が高まっているようです。

一方、先の文部科学大臣のメッセージには、「忘れてはならないことは、ICT 環境の整備は手段であり目的ではないということです。(中略) その際、子供たちが ICT を適切・安全に使いこなすことができるようネットリテラシーなどの情報活用能力を育成していくことも重要です。」と述べられています。



<7年生の英語の授業のようす>

す。ICTを使いこなすためには、正しい利用の仕方を学ぶことが必要です。2学期に、「情報モラル出前講座」等を行い、ネットリテラシー（インターネット・リテラシーを短縮した言葉で、インターネットの情報や事象を正しく理解し、それを適切に判断、運用できる能力）を育成していきます。

## ◎ 南波多郷学館のよさが活きる児童生徒会の取組



児童生徒会による”たてわり遊び”が先月下旬の昼休みを使って行われました。「ケイドロ」や「鬼ごっこ」に1～9年生が参加して楽しい時間を過ごしていました。特に素晴らしいと感じたのは、生徒会本部が前日うまくいかなかったと思ったところを次の日には対策を講じていたところでした。たてわり遊びに参加している人とそうでない人が分かりづらいという声があったため、翌日にはビブスを着用するということにな

りました。なんとか改善しよう、要望に応えようという姿勢がとても素晴らしいと思いました。

また今週は、本部の活動として”あいさつ運動”が行われています。5月は総務部の活動でしたが、今月は本部の活動に総務部が協力して活動が進められています。今後も、児童生徒会が1～9年生を巻き込んでどのような取組を進めていくのか楽しみです。



## ◎ 制服検討を進めています

本校の制服は、南波多中学校から受け継がれてきたものですが、近年、次のような課題が出てきていました。

- ・気候変動の影響を受け、暑い夏でも寒い冬でも温度調節ができる機能的な制服が求められている。
- ・多様性に対応し、ジェンダーレス化の制服が求められる時代となっている。

このようなことから全国的にも制服を見直す学校も増えています。そこで、本校でも令和5年度の7年生より新制服を導入するための制服検討委員会を設置し、新しい制服について検討を始めています。基本方針としては、先の課題を解決することと、

- ・南波多郷学館の地域や学校の特長を、デザインや色で表現する。
- ・制服を着用することで心の張りにつなげ、学校生活を充実させる。

も合わせて検討することとしました。8月下旬には、いくつかの新しい制服見本を披露できるように進めています。7月13日（水）の授業参観前の制服説明会で、詳細を説明します。

## ◎ おめでとう！次の大会でも応援しています

- ・中体連＜ソフトテニス競技＞県大会出場 N・Kさん・M・Sさんペア
- ・県通信陸上＜砲丸投げ＞第5位入賞 M・Aさん

